



ふたば

平成 29 年 10 月 23 日
甲府市立千塚小学校
No. 15 文責:校長 中國

学校教育目標
心豊かで
たくましい子ども

全国学力・学習状況調査結果報告

本調査は、平成 29 年 4 月 18 日（火）に実施され、児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善や生活指導などに役立てることを目的としています。

調査内容は、大きく「①教科に関する問題(国語・算数)」と、「②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」に分かれ、国語・算数とも[A：主として「知識」に関する問題]と、[B：主として「活用」に関する問題]の 2 つに分かれています。

また、子どもの生活の様子や意識に関する調査を、質問紙で行っています。

8 月末に文部科学省から本校の結果が送付され、本校でも運動会等学校行事への取り組みと並行して、結果の分析を行ってまいりました。このたび分析結果がまとまりましたので、その概要を皆様にお知らせするとともに、本校ホームページにも掲載していきます。

なお、調査に参加しました 6 年生には、個別懇談等を通して具体的な課題等について説明していく予定です。

1 全国平均との比較

どの教科も全国平均を上回りました。

- ① 国語A 全国平均を上回ります。漢字の訓読み書きが特によかったです。
- ② 算数A 全国平均をやや上回ります。
- ③ 国語B 全国平均を上回ります。「根拠」を資料から読み取って選択する問題の正答率がよかったです。
- ④ 算数B 全国平均をやや上回ります。数字を操作したり、数字を使う説明を記述したりする問題は、よい傾向になっています。
- ⑤ 質問紙調査
自尊心については全国平均、県平均と比較すると高いです。また、生活習慣、学習習慣については、全国平均並みですが、県平均と比較するとやや低いです。

2 昨年度の千塚小結果との比較

学力は昨年度より改善されました。

- | | |
|----------------|----------------|
| ① 国語A 改善されました。 | ③ 国語B 改善されました。 |
| ② 算数A 改善されました。 | ④ 算数B 改善されました。 |

3 成果と指導の改善

①国語A

漢字の、読み、書きについてはよく習得できています。国語の正答率がよいのは、漢字のような基礎・基本が習得できているためだと思います。しかし、生活の中であまり触れることのない言葉であるためか「対象」の書きの正答率は、本校における他の設問に比べると低くなっています。さまざまな文章にふれ、語彙を増やしていくことが必要です。

②算数A

正確に計算することや数字や式の意味については、基本が定着してどの問題についても高い正答率でした。しかし、 $6 + 0.5 \times 2$ の計算については、本校における他の設問に比べると低くなっています。計算の順序を考える過程がむずかしかつたと考えられます。知識を組み合わせる指導にも力を入れることで、さらに高めていきたいと考えています。

③ 国語B

論理的に文章の組み立てを考える2つの問題についてはそれぞれ非常によかったです。論理的に考え表現することは国語だけでなく、総合的な学習の時間や、児童会活動などを通して日常的に経験しているからだと考えています。今後もこのような指導を継続していきます。

④ 算数B

文章で示された条件を式で表す問いについては、非常に高い正答率でした。これに対し、条件が多く複雑になり、言語での説明を求められる問いは若干低い正答率でした。特に、理解しているが正確に表現できない傾向が見受けられました。計算など、基礎・基本の徹底だけではなく、今後はさらに記述の仕方、問題への答え方など表現の技能に習熟することが必要だと考えています。

4 日常生活について

本校の児童は、質問紙調査で自尊心が高い傾向があることがわかりました。これは望ましいことですが、自分の生活や行動については妥当な自己評価に基づくことが必要だと思います。

児童の日常の様子をみると、トラブルのときに自己の正しさを主張し、他の子どもを思いやったり、自分の行動を素直にふり返ったりできない様子が見受けられます。素直に自己をふり返り、妥当な自己評価に基づいた自尊心を育てていきたいと思えます。

5 家庭学習について

家庭学習に対する資料を今年度、改訂作成し、家庭との共通理解が進んできました。このことも結果の改善につながったと思えます。家庭との情報交換をすすめ、児童が意欲をもって取り組める効果的な家庭学習の課題などを工夫していきたいと思えます。

6 千塚小学校では

① 論理的に考え説明する活動をすすめる。

昨年度以前は、国語でも算数でも、問いに書かれている数値、データ、客観的な記述などを根拠に考えを述べることに課題がありましたが、今回の結果からは成果が表れています。

授業の中で、根拠を見つけ説明するというのに慣れさせたり、表現方法を身に付けたりさせる活動を今後はさらにすすめていきます。

これは国語と算数だけでなく、理科、社会、総合的な学習の時間でも必要となる資質・能力でもあるので、これらの授業の中でも意識して学習させることが効果的であると考えています。

② 学力調査から求められる資質・能力を焦点化する

学力調査問題は、学習指導要領の目標を具体化したものであり、正答率は学習指導要領に示された目標の達成状況ともいえます。授業で取り上げる課題を、学力調査問題から求められる資質・能力を高めることに焦点化していくことも必要です。下の学年でも調査問題から求められる資質・能力を見通して、基礎・基本の知識や技能を高めていきます。

また、昨年度以前に特に課題の大きかった漢字については、継続した学習により、定着を図ることができました。

さらに、国語と算数の共通課題となっていた「論理的な思考と表現」についても各学年にふさわしい「論理的な思考と表現」を育てる指導の成果も表れています。

今回の大きな成果が今後も続くように、授業改善を進めていきます。



